

CDC（米国疾病管理予防センター）からの返事

当法人からの下記の質問に対し、2013年7月24日にCDCからお返事を頂きました。CDCは、日本の国立感染症研究所と同じくらい権威のあるアメリカ政府の機関です。

質問：「CFSは、原因が明らかでない激しい慢性的な疲労を訴える患者の病因・病態の解明を目的に、1988年にCDCにより作成された疾病概念である」というのは本当ですか。

CFS（慢性疲労症候群）という病名は、CDCによって作成されたものではなく、CDCは慢性疲労症候群を激しい疲労の病気とは捉えていません。そして、「この疾患の身体を衰弱させる重篤な特徴は、いかなる病名によっても十分に伝えきことは困難です」としています。CDCはCFSを非常に深刻な疾患として捉え、臨床医を教育するためのコースを開発し、「慢性疲労症候群：プライマリー・ケアにおけるチャレンジ」と題して、無料で公開しています。そのコースの講師は、私たちの会でお馴染みのアンソニー・コマロフ・ハーバード大学教授やチャールズ・ラップ博士と、ルシンダ・ベートマン博士です。当法人で翻訳した「コマロフ教授の2010年の講演のまとめ」や、ラップ博士を当法人でお招きした際の「シンポジウムの基調講演の抄録」をお読み頂ければ幸いです。学習コースはこちらからご覧になれます。<http://www.cdc.gov/cfs/news/features/cme.html>

1984年から86年にかけて、アメリカのネバダ州において集団発生したことで、この病気は世界的に知られるようになりましたが、1956年に既に有名な医学誌「ランセット」に、「良性筋痛性脳脊髄炎」という病名が提唱されていました。その後、予後が悪いことが判明し、「筋痛性脳脊髄炎」という病名に変更されていたにも関わらず、1988年に開催された国際会議で、患者の反対を押し切って「慢性疲労症候群」という病名が選ばれてしまいました。その当時は原因も全くわかっていませんでしたが、その後、世界的に研究は進み、この病気の主な病態は中枢神経系の機能異常や調節障害であることや、通常ウイルス感染後に発症することがわかっています。

【CDCからの返事】

CDC-INFOにご質問をいただき、ありがとうございました。CFSに関する情報へのお問い合わせは、CDCの担当の専門家に転送致しました。喜んで専門家よりお返事させていただきます。

CDCは1988年に、当時「慢性EBウイルス症候群」と呼ばれていた、説明のつかない疾患の症例定義を検討するために、専門家による国際会議を開催し、1994年にも症例定義を改訂するために、同様のグループを召集しました。どちらの症例定義も、これらの会議で国際的な専門家によって作成されたもので、CDCによって作成されたわけではありません。これらの症例定義は、疲労を主訴とし、身体を衰弱させる説明のつかない疾患を研究している研究者の一助として提案されました。どちらの症例定義も、根本に潜む多くの病理学的プロセスがある可能性を認めており、この疾患をどのようにみなすべきかを特定してはしません。「慢性疲労症候群」という病名は、この疾患についてわかっていることをよく表しているものとして、専門家によって選ばれました。この疾患の、身体を衰弱させる重篤な特徴は、いかなる病名によっても十分に伝えきことは困難です。CDCはCFSを非常に深刻な疾患として捉えており、そのことは臨床医を教育するために私どもが開発した医師のための生涯学習コース*や、ホームページに掲載された情報をご覧いただければ明白です。

連邦政府以外の団体のリンク先をサービスの一環として提供しておりますが、CDC及び連邦政府が、これらの団体やプログラムのリンク先を支持してはおりません。これらのリンク先の団体のホームページの内容について、CDCには責任はありません。

CDC-INFOにコンタクトしていただき、ありがとうございました。さらにお知りになりたい方は、1-800-CDC-INFO(800-232-4636)へお電話いただくか、www.cdc.gov/info をご覧ください。CDC-INFOは、CDC（疾病管理予防センター）とATSDR（有害物質・疾病登録局）のためのサービスです。このサービスは、CDCとNetworx Universalとの契約に基づき、ヴェリゾン・コミュニケーション社と下請け会社によって提供されています。

※翻訳はNPO法人「筋痛性脳脊髄炎の会」理事長の篠原三恵子が行い、NPO法人「筋痛性脳脊髄炎の会」理事の申 偉秀（東京保険医協会理事）が医学監修致しました。